

平成 30 年 6 月 15 日現在

機関番号：32634

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K03054

研究課題名(和文) 多重国籍・市民権とアジアの市民社会の越境的動態に関する文化人類学的研究

研究課題名(英文) Cultural-Anthropological Study on Multiple Nationality/Citizenship and Transnational Dynamics of Asian Civil Society

研究代表者

上杉 妙子 (Uesugi, Taeko)

専修大学・文学部・兼任講師

研究者番号：90260116

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題の目的は、多重国籍・市民権に注目してアジアの市民社会の越境的動態について解明することにある。そのために3人の研究者が、在外ネパール人協会の多重市民権法制化運動や韓国・朝鮮人移民の国籍・生活実践と出身国・居住国の市民社会における表象と言説、在独トルコ人移民の文化的実践などを切り口とする実証的研究を行った。この研究の成果発表として、我々は2017年にカナダで開催された、国際人類学・民族学科学連合(IUAES)において「移民と非西欧市民社会の越境的動態」と題する分科会を開催したほか、さらに日本文化人類学会の英文誌において同テーマの特集を編むべく、現在、投稿中である。

研究成果の概要(英文)：This joint study aimed to clarify the transnational dynamics of Asian civil societies with an attention to multiple nationality/citizenship. We gathered data and examined about 1) the campaign for the legislation of multiple citizenship by the Non-resident Nepali Association, 2) nationality of Korean migrants and their representation in their residential societies, and 3) cultural practice of Turkish immigrants in Germany. In order to present the accomplishment of our study, we organized a panel ("Migration and transnational dynamics of non-Western civil societies") at the Joint Conference/Inter-congress of Canadian Anthropology Association and International Union of Anthropological and Ethnological Sciences. Furthermore, Uesugi collected relevant articles from the presenters at this conference and submitted them to the English journal of Japanese Society of Cultural Anthropology to organize a special issue titled "Migration and transnational dynamics of non-Western civil societies."

研究分野：文化人類学

キーワード：非西欧市民社会 多重国籍/市民権
ナショナリズム

移民 越境市民社会 ヘイトスピーチ 貧困 福祉

1. 研究開始当初の背景

多くの移民を送り出している非西欧諸国は現在、多重国籍・市民権を法制化することにより、移出民の再統合を進めている。多重国籍・市民権とは、一人の個人が保持する複数の国家の国籍ないし市民権である(注1)。1997年の「国籍についての欧州会議」では国際結婚に起因する二重国籍・市民権を認めるように参加国に求めた。現在では、少なくとも80か国が多重国籍・市民権を容認しているとされる。その結果、多重国籍・市民権は主に法律学や政治学の分野で研究テーマとして取り上げられるようになった。しかしながら、議論の焦点は移民を受け入れる欧米諸国に偏っており、また、主権や安全保障に対する影響を論ずるものが多かった。

そこで、申請者はネパール人移民に焦点を当てて多元的にしてオルターナティブな国籍・市民権概念について解明するために、平成23-25年度科学研究費基盤研究(C)(一般)(研究課題：在英ネパール人移民の多重市民権をめぐる社会運動と理念、生活実践についての研究)の助成を受け、英国陸軍グルカ兵を含む在英ネパール人を対象とした研究を実施した。その結果、第一に、多重市民権法制化運動が、在外ネパール人協会(Non-Resident Nepali Association, NRNA)の活動の一環として行われていることがわかった。第二に、ネパール人移民たちは、その知力と財力をネパール政財界やメディア、法曹界、NGOとの交渉や関係の強化につぎ込んでおり、越境市民社会と呼ぶにふさわしい社会空間を作り出していることが判明した。内戦と王制廃止を経て国家建設の途上にあるネパールでは近年、市民社会(nagarik samaj)についての議論が活発化しているが、多重市民権法制化運動は市民社会の展開を語る上で無視できない事象となりつつある。以上の研究を通して、私は、移民の多重帰属は、アジアの市民社会の動態を考える上で欠かせない要因なのではないかと考えるに至った。

市民社会とは私的領域と国家の中間に位置する領域であり、個人の平等と自律的結合、熟慮による意思決定、成員の権利義務の認知などの原理にもとづいて構成されている(Kaviraj & Khilnani eds. 2001: 172; 150)。市民社会は西欧で発展した社会モデルではあるが、Kaviraj と Khilnani による論文集が出版されて以来、現代の非西欧社会を描出するための分析概念としても注目されている(たとえば Gellner ed. 2009)。しかし、その関心は国内に居住する国民・市民の動向や状況に集中する傾向があり、移民の動向やその多重帰属に対する関心はまだ十分なものではない。情報技術や交通手段の発展により移民の越境紐帯が長期にわたり維持されていることを考慮するならば、移民の動向やその多重帰属に注目することは、アジアの市民

社会の動向を探る上で欠かせないのではないか。多くの国が多重国籍・市民権を容認し移民が越境紐帯を維持する傾向が強まっている現在、市民社会研究にも越境的視点を導入することが望まれるのではないか。移出民の介入によるアジア市民社会の発展の可能性については、すでに Zubaida の指摘があるものの(Kaviraj & Khilnani eds. 2001:246)、十分な研究はあまりなされていないかった。

振り返って日本を見てみると、2000年代以降は移民政策の重点が入国管理政策から社会統合政策に移行し、移民の日本社会への包摂が進みつつある。また、経済のグローバル化に伴い在外邦人の人口も50万人を超えていた。つまり、多重国籍保持者が今後大きく増加する社会的条件は十分に整っていたのである。そのころ、日本人の父とロシア人の母との間に生まれ、ロシアの旅券を持つ子供の日本国籍の確認を求める提訴もあった(平成26年9月27日付け、日本経済新聞)。従って、多重国籍・市民権に注目してアジアの市民社会の動向を分析する研究を実施するならば、日本社会の将来を予想する上で有益なヒントを提供することになると考えられた。

2. 研究の目的

以上の背景を考慮して、本研究は、多重国籍・市民権に注目してアジアの市民社会の越境的動態について解明することを目指した。具体的には、3人の研究者を組織し、在外ネパール人協会の多重市民権法制化運動や国際結婚などによる多重国籍保持者などの生活実践と韓国社会における表象と言説、在独トルコ人の文化的実践などを切り口とする実証的研究を行い、さらに、各人の研究成果を比較対照することにより、アジアの市民社会の越境的動態についての理論を構築することを目指した。

3. 研究の方法

研究代表者の上杉は、在外ネパール人協会による多重市民権法制化運動に焦点を当てネパール市民社会の越境的動態について研究した。申請当時、ネパールでは新憲法の制定が大幅に遅れ多重市民権の法制化の成否が決着を見ていなかったため、運動がさらに活発化していた。上杉は、在外ネパール人協会の組織構造や多重市民権法制化運動の理念と象徴、多重市民権法制化をめぐる交渉と妥協、運動がネパール市民社会の展開にとつてもつ意義などについて調べた。

研究分担者の岡田は、国際結婚による多重国籍保持者に焦点を当て、韓国市民社会の越境的動態を解明することを目指した。韓国では2009年に在外国民投票が始まり、2010年に多重国籍が容認されるなどの大きな変

化があった。それは、1)外国人介護労働者や結婚移民、在韓華僑などの外国籍住民の増加と2)少子高齢化と海外養子、頭脳流出による国力の低下に対する懸念に対応しようとするものであった(藤原 2010)。国境を越える人の移動は、多重帰属を認める見地からの韓国人の再定義をもたらすこととなったのである。岡田はベトナムからの結婚移民に焦点を当て、その文化・生活 実践とともに、市民団体による支援活動、政府の移民政策、送出国と韓国社会における彼らの表象と言説について調査研究を行うことにより、単一族国家のイメージがある韓国の市民社会の変容を描き出すことを目指した。

研究分担者の村上は、在独トルコ人に焦点を当てた。トルコには、伝統にもとづきつつも普遍的な志向と開放的な成員資格を伴う近代的な市民団体があり、イスラーム市民社会の模範的事例があると見なされている(Kaviraj & Khilnani eds. 2001:243)。一方、トルコは EU 諸国において最大多数を占める外国人の出身国でもある。移出民とトルコ社会との間には、社会文化的かつ経済的な越境紐帯が形成され、在欧トルコ人コミュニティはトルコ・イスラーム市民社会の一部でもある。一方、在欧トルコ人の受入国社会への統合は必ずしも順調には進んでいない。欧州諸国では、名誉殺人や強制結婚など、私的領域における文化的実践が取り沙汰され、トルコ人の文化的異質性が論じられてきた。しかし、多くのトルコ人移民が居住するドイツも移民の社会統合政策に舵を切り、1999 年には移民の子供たちの二重国籍の保持を限定的に容認した(注2)。村上は、在独トルコ人に焦点を当て、多重国籍の容認などの統合政策が、移民の文化的実践やトルコ・イスラーム市民社会の越境的動態に及ぼす影響について考える。

本研究ではさらに、研究会を開催し、各人が研究成果を持ち寄り比較対照することにより、多重国籍・市民権とアジアの市民社会の越境的動態についての理論構築を目指した。

4. 研究成果

(1) 27 年度

上杉は、10月にネパール出張を実施し、在外ネパール人協会による多重市民権法制化運動と市民社会についての調査を実施するとともに、アジアの市民社会に関する文献研究を実施した。上杉はまた、デンマーク政府が助成する国際研究プロジェクト The Anthropology of Contemporary Civil-Military Entanglements Network (ACCME) に参加、越境軍事労働移動と多重市民権についての発表を行った。

岡田は、韓国釜山大学社会科学研究院と済州大学在外済州人研究センターの研究者や、ベトナム国家大学人文社会科学大学ホーチ

ミン校東洋学部人類学科及び日本学部の研究者と協力し、ベトナム系女性の国際結婚に関する共同調査体制を立ち上げた。日本および韓国でも資料収集とフィールドワークを実施した。岡田はまた、移民の市民権や公共領域、社会的参与に大きな影響を与えると考えられる言語政策を取り上げ、日系ブラジル人を主たるテーマとする国際学会で発表した。岡田はさらに、東アジアの移民問題に大きな影響を及ぼしている地域主義をテーマとする論文集に、論文を執筆した。

村上はトルコ及びドイツでの現地調査を実施した。トルコおよびドイツにおける市民権に関して資料収集を行ったほか、文化的市民権と密接に関連する問題領域として「名誉」の概念に注目し、日本文化人類学会でその成果の一部を発表した。

(2) 28 年度

上杉はネパールに出張して在日ネパール人協会関係者や関係団体を対象とする参与観察と面接調査を行い、多重国籍・市民権とネパール市民社会の越境的動態に関するデータ収集を実施した。上杉は成果発表の一環として、共著図書『体制転換期ネパールにおける「包摂」の諸相 言説政治・社会実践・生活世界』に「多重市民権をめぐる交渉と市民権の再構成 在外ネパール人協会の「ネパール市民権の継続」運動」と題する論文を発表した。この論文では、移出民の越境市民社会による運動がネパールの市民権制度を変えつつあると指摘した。さらに、移出民たちが、複数の市民権を、ネパールの発展のために相補的な役割を果たすセットとして概念化していることも明らかにした。

岡田は、日本社会における在日朝鮮・韓国人の位置づけやナショナリズムについて文献研究と実地調査を行った。

上杉と岡田は、日本学術振興会研究拠点形成事業(A.先端拠点形成型)「日欧亜におけるコミュニティの再生を目指す移住・多文化・福祉政策の研究拠点形成」の一環として神戸大学大学院国際文化研究科国際文化学研究推進センターにおいて実施された、神戸セミナーにおいて研究発表を実施した。

村上は、市民権概念とその編成について、歴史学、政治学、及び文化人類学の分野の関連文献の検討を通じて議論を整理し、文化的市民権の概念の有効性と限界について考察した。その上で、在独トルコ人を対象とした過去の面接調査で得られたデータに基づき、性的名誉(ナムス)や親族間の相互扶助などの問題群の検討を行い、トルコとドイツにおける文化的市民権の編成について考察した。

(3) 29 年度

上杉と岡田は、成果発表の一環として、5月2日にカナダ・オタワ大学で開催された、国際人類学・民族学科学連合(International

Union of Anthropological and Ethnological Sciences, IUAES)において、"Migration and transnational dynamics of non-Western civil societies"(Panel RM-MRB04)と題する分科会を組織し、口頭発表をそれぞれ実施した。上杉はネパールからの移出した人々の越境市民社会と出身国との関係が、国境を越えるコーポラティズムを現出させていると発表をした。岡田は、東アジアにおける多文化社会とナショナリズムについて発表をした。この分科会では、上杉と岡田の他に、六組の内外の研究者が発表を実施した。さらなる成果発表として、上杉は、日本文化人類学会の英文学会誌である Japanese Review of Cultural Anthropology において"Migration and transnational dynamics of non-Western civil societies"と題する特集を掲載するために、IUAES における分科会発表者と別の分科会の発表者から論考を募り、現在投稿中である。

岡田はそれと平行して、在日韓国・朝鮮人に対するヘイト・スピーチや国籍に関する研究を実施した。村上は、文献調査とイスタンブールの移住女性に対する聞き取り調査を実施し、移住女性のアイデンティティ獲得の諸相を検討した。村上によると、彼女たちは自らを「貧困者」や「福祉受給者」としてカテゴリ化し他者化する権力に対し、時に従い時に抵抗する。一見矛盾する言動は、生活のためのやりとりであり、さらには承認や尊重への希求に根差している。

(4) 今後の展望

以上述べた通り、各人が現地調査や文献調査を行い多くのデータを収集した。研究成果の一部はすでに口頭発表や学術論文として発表されている。しかし、アジアの市民社会の越境的動態についての理論を構築するという段階にはまだ到達していない。今後とも、データを補いつつ、研究を継続していくことが望まれよう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計6件)

上杉妙子 2018「海外在住ネパール人協会とNCC日本」『Migrants Network』(NPO・移住者と連帯する全国ネットワーク)197号、22-23。査読無

村上薫 2017「名誉解釈の多様化と暴力：イスタンブールの移住者社会の日常生活をめぐる」『文化人類学』82(3), pp.328-345。査読有

上杉妙子 2017「<書評>中川加奈子著『ネパールでカーストを生きぬく 供犠と肉売りを担う人びとの民族誌』」コンタクト・ゾーン = Contact zone, 9(2017): 453-456。査読無。DOI:

<http://hdl.handle.net/2433/228341>

Uesugi, Taeko 2016 " Book review:

Seika Sato. 2015. *Kanojotachi tono kaiwa: Nepāru yorumo shakai niokeru raifu/sutorī no jinruigaku* (Book review: *Conversing with the Yolmo Women: An Anthropology of Life/Story in Nepal*).” *Studies in Nepali History and Society* 21(1): 219-222. 査読無。

福浦厚子・上杉妙子 2015「国際研究会『現代の錯綜した民軍関係についての人類的研究ネットワーク』に参加して」『文化人類学研究』80巻3号、455-461頁。査読有。

上杉妙子 2015「書評 宮西香穂里宮著『沖縄軍人妻の研究』」『文化人類学研究』79巻4号、485-488頁。査読有

〔学会発表〕(計15件)

Uesugi, Taeko, "The Role and Status of Soldiers from Informal Empire." International Conference: Colonial Mobilization in Africa and Asia during the Second World War: Soldiers, Labourers and Women. (Organized by the research project "Colonial Soldiers in World War II: War, Labour and gender under Colonialism," (Principal Investigator: Yoko Nagahara) funded by the Japan Society for the Promotion of Sciences (JSPS)). Kyoto University, Rakuyu Kaikan. 2018年3月22日。

村上薫「トルコにおける子どもの保護」、社会主義を経たイスラーム地域のジェンダー・家族・モダニティ研究会、京都大学稲盛財団記念館、2017年11月25日。

村上薫「不妊の社会的・文化的な意味トルコを中心に」、アジア経済研究所夏期公開講座「不妊治療の時代の中東：家族、医療、イスラームの視点から」、2017年7月19日。

Okada, Hiroki "Localized"

Multiculturalism and Nationalism in East Asia. A Joint CASCA and IUAES Conference/Inter-congress, Stream: Relational Movements: Migration, Refugees and Borders, Panel RM-MRB04: Migration and Transnational Dynamics of Non-Western Civil Societies (Convenor: Taeko Uesugi, Co-Convenor: Hiroki Okada). The University of Ottawa, May 2, 2017.

Uesugi, Taeko "Corporatism beyond National Boundaries? The Transnational Civil Society of Nepalese Emigrants and the Nepalese Government", A Joint CASCA and IUAES Conference/Inter-congress, Stream: Relational movements: Migration, Refugees and Borders, Panel RM-MRB04: Migration and

Transnational Dynamics of Non-Western Civil Societies (Convenor: Taeko Uesugi, Co-Convenor: Hiroki Okada). The University of Ottawa, May 2, 2017.

Uesugi, Taeko "Enlarged Corporatism beyond National Boundaries: Nepalis' Transnational Civil Society and the Origin Country." Kobe Seminar. (神戸大学国際文化学研究所、国際文化学研究推進センター) (JSPS Core to Core Program A, Advanced Research Networks, Research on the Public Policies on Migration, Multiculturalization and Welfare for the Regeneration of Communities in European, Asian and Japanese Societies.) 2017年3月17日。

Okada, Hiroki "The Curious Conjugation between the Supporting and the Hate Speech for Foreign Residents in Japan and Korea". Kobe Seminar. (神戸大学国際文化学研究所、国際文化学研究推進センター) (JSPS Core to Core Program A, Advanced Research Networks, Research on the Public Policies on Migration, Multiculturalization and Welfare for the Regeneration of Communities in European, Asian and Japanese Societies) 2017年3月17日。

Taeko Uesugi " ' Single ' in the Cases of British Soldiers in Colonial India during 19th Century. " Symposium: Toward the Co-existence of Various ' Single ' in the Global Societies. 東京外国語大学、アジア・アフリカ言語文化研究所。2017年2月3日。論文のみ提出
上杉妙子「越領域的国民国家の国家統治と市民権概念 在外ネパール人協会の『ネパール市民権の継続』運動」日本南アジア学会第29回全国大会、神戸市外国語大学。2016年9月25日。

Uesugi, Taeko "Masculinity of Single/married Soldiers: The Cases of British Soldiers in Colonial India in the 19th Century." ILCAA Joint Research Project ' Single ' and Family: The Anthropological Study of 'Enishi, ' , Diversity of the Meaning of Being ' Single ' in Global Societies: Drastic Changes in the Way of Life, Human Relations, and Kinship. 東京外国語大学、アジア・アフリカ言語文化研究所。2015年12月12日

Uesugi, Taeko "Multiplicity and Transnationality of Migrant Soldiers ' Citizenship Negotiation: Things, Memories, and Rhetoric Appropriated by Retired British Gurkhas."

Workshop 2 of " The Anthropology of Contemporary Civil- Military Entanglements Network." (The Danish Agency for Science and Innovation's International Network Program), Copenhagen University, Denmark.

2015年11月4日

岡田浩樹「誰が『母語』を必要とするのか - 日本社会のマイノリティにとっての「日本語」の政治的意味」『国際語としての日本語に関する国際シンポジウム』日本文化研究所、Sao Paolo。コーディネーター：岡田浩樹）2015年8月15日

Uesugi, Taeko "Becoming British Citizens: " Postmodern military " , not so postmodern civil society and Gurkhas " , Workshop 1 of " The Anthropology of Contemporary Civil-Military Entanglements Network " (The Danish Agency for Science and Innovation's International Network Program) Open University of Israel. 2015年7月28日

村上薫「トルコにおけるナームスの暴力 支配、保護、帰属の連続性をめぐって」日本文化人類学会49回研究大会、「名誉に基づく暴力」分科会、大阪国際交流センター。2015年5月31日

上杉妙子「兵士の男性性と婚姻区分 (marital status) 19世紀植民地インドにおける英国人兵士に対する結婚許可制限」日本文化人類学会第49回研究大会、大阪国際交流センター。2015年5月30日

〔図書〕(計 8件)

村上薫(編者) 竹村和朗、岡戸真幸、鳥山純子、細谷幸子、岩崎えり奈 2018『中東における家族の変容』研究会調査報告書』アジア経済研究所。79頁(70-79)。
榎本泰子(編者)、鄭俊坤、金大偉、柳政熙、飯塚容、大田美和、藤岡朝子、妹尾達彦、村上薫、佐藤洋治、長谷川彩未、R・コフラー、鎌田東二、趙維平、麻生晴一郎 2018『アジアと生きる アジアで生きる』樹花舎。284頁(147-161)。

村上薫(編者) 後藤絵美、岡戸真幸、鳥山純子、細谷幸子、宇田川妙子、岩崎えり奈、松尾瑞穂 2018『不妊治療の時代の中東 家族をつくる、家族を生きる』アジア経済研究所。245頁(i, 1-15, 121-148)
名和克郎(編者)、石井溥、中川加奈子、森本泉、橘健一、藤倉達郎、佐藤齊華、田中雅子、高田洋平、丹羽充、別所裕介、南真木人、上杉妙子、宮本万里 2017『体制転換期ネパールにおける「包摂」の諸相 言説政治・社会実践・生活世界』三元社。579頁(485-524)。

福田宏(編者)、柳澤雅之(編者)、村上薫、樋口敏弘、大石高典、岡田勇、栗本英世

2016 『せめぎあう眼差し：相関する地域を読み解く』(CIAS Discussion Paper No.56) 京都大学地域研究情報統合センター。51 頁 (37-38)

村上薫(編者)、鳥山純子、細谷幸子、後藤恵美、岡戸真幸 2016 『中東イスラーム諸国における生殖医療と家族』日本貿易振興機構アジア経済研究所。64 頁 (55-64)。

坂井一成(編者)、大庭三枝、山崎直也、岡田浩樹、貞好康志、窪田幸子、安岡正晴、河原地英武、ユク・ロベスピダル、ノエミ・ランナ、谷川真一、ギブール・ドラモット、岸清香、佐藤洋治 2015 『地域と理論から見るアジア共同体』芦書房。238 頁 (59-72)。

田中雅一(編者)、S.フリューストウック、福浦厚子、河野仁、森地真也、A.スキャブランド、小池郁子、丸山泰明、E.ベン=アリ、高嶋航、朴真煥、上杉妙子、福西加代子、田村恵子、C.エイムズ 2015 『軍隊の文化人類学』風響社。598 頁 (459 - 485)。

〔その他〕

京都大学大学院文学研究科・文学部、「3月22日、23日に国際会議 ” Colonial Mobilization in Africa and Asia during the Second World War: Soldiers, Labourers and Women ” を開催いたします。」

<https://www.bun.kyoto-u.ac.jp/events/20180322/>

CASCA/IUAES2017 Conference in Ottawa, Panels

<http://nomadit.co.uk/cascaiuaes2017/site/panels.php5?PanelID=5322>

日本文化人類学会第49回研究大会『発表要旨集』(村上薫発表)

<https://doi.org/10.14890/jasca.2015.0.A15>

日本文化人類学会第49回研究大会『発表要旨集』(上杉妙子発表)

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jasca/2015/0/2015_F01/_pdf

ジェトロ・アジア経済研究所、研究者の紹介、村上薫

http://www.ide.go.jp/Japanese/Researchers/murakami_kaoru.html?media=pc

国際語としての日本語に関する国際シンポジウム

<https://ejhib2015.com/> 地域と理論から見るアジア共同体

http://www.kobe-u.ac.jp/info/public-relations/book/1508_20_1.html

University of Copenhagen, Emanating/continuing research.

http://anthropology.ku.dk/research/research-projects/current-projects/soldier_and_society/bokse/researchers/emanatin

[g-continuingresearch/](http://www.fukyo.co.jp/book/b194108.html)

風響社、軍隊の文化人類学

<http://www.fukyo.co.jp/book/b194108.html>

神戸大学国際文化学研究推進センター、JSPS 研究拠点形成事業

http://web.cla.kobe-u.ac.jp/group/Promis/core2core/core_to_core_TOP.html

6. 研究組織

(1) 研究代表者

上杉 妙子 (UESUGI, Taeko)

専修大学・文学部・兼任講師

研究者番号：90260116

(2) 研究分担者

岡田 浩樹 (OKADA, Hiroki)

神戸大学・国際文化学研究科・教授

研究者番号：90299058

村上 薫 (MURAKAMI, kaoru)

独立行政法人・日本貿易振興機構アジア経済研究所・新領域研究センター・主任研究員

研究者番号：00466062

(注1) 「市民権」(citizenship)とは「共同体の完全な成員である人々に与えられた地位」(Marshall1964[1949]:92)である。近代以降は「市民権」を与える主体が主に国家であったため、「市民権」と「国籍」(nationality)の意味内容が重なることも多い。そのため、「国籍」を用いる国と「市民権」を用いる国とが混在している。ここでは、国家への法的な成員資格について一般論を述べる際には、「国籍・市民権」として併記する。そして個々の国の記述に関しては、その国で用いられている用語を用いて記述することとしたい。

(注2) トルコ政府は1981年にすでに多重市民権を容認している。

引用文献

藤原夏人 2010 「韓国の国籍法改正 限定的な重国籍の容認」『外国の立法』245: 113-140。

Gellner, D. ed. 2009. *Ethnic Activism and Civil Society in South Asia*. New Delhi: SAGE Publications.

Kaviraj, S. & S. Khilnani eds. 2001 *Civil Society: History and Possibilities*, Cambridge: Cambridge University Press.

Marshall, T. H. 1964[1949] "Citizenship and Social Class," *Class, Citizenship, and Social Development*, Chicago: The University of Chicago Press.